

学生の学習意欲に関する調査

秋本竜之介(文教大学情報学部メディア表現学科)

目次

1.	はじめに.....	2
2.	調査概要とリサーチ・クエスチョン.....	3
3.	調査結果.....	4
3.1	小学生～高校生までの間の家庭の経験.....	4
3.2	小学生～高校生までの間の学校の経験.....	4
3.3	学習に対する基本的意識.....	5
3.4	困難課題への取り組み意識.....	7
3.5	学習に対する態度.....	8
3.6	これまでの学習経験・学習方法.....	9
3.7	学習における主体性.....	11
3.8	自主学習時間(1日平均).....	12
4.	因子分析結果.....	13
4.1	従属変数.....	13
4.2	独立変数.....	13
4.3	因子(自発的傾向が強い).....	13
5.	重回帰分析.....	14
6.	参考文献.....	14

1. はじめに

私は現在、スポーツクラブで子どもたちに体操や水泳を指導するアルバイトをしている。そこで日々接する子どもたちは、元気いっぱいな子もいれば、落ち着いた子、少しのことで不安になってしまう子など、反応はさまざまだ。なかでも注目したのが、定期的に行われる技術テストの際の子どもたちの反応である。

普段の練習ではのびのびと動いている子どもが、テスト本番になると緊張して泣いたり、「やりたくない」と拒否したりする場面があった。こうした場面を見て、親が子に対して行う「テストに合格したらご褒美をあげるよ」といった報酬の与え方が、本当に子どものやる気を高める方法なのか疑問を感じた。一方で、ご褒美があることで目の色を変えてがんばる子もあり、報酬が効果的に働いているように見えるケースもある。こうした経験から、報酬制度は必ずしも一様に作用するわけではなく、子どもの個性や性格によってその影響が大きく異なるのではないかと思うようになった。

私自身の関心は、「子どもがプレッシャーを感じずに、楽しく、自然な形で力を発揮できる環境をどうつくるか」ということだ。子どもたちにとって、努力や挑戦が“義務”や“恐怖”になるのではなく、前向きな経験になるような指導を目指したいと考えている。しかし現場では、報酬や結果に重きを置く指導が無意識のうちに子どもにプレッシャーを与えていることもある。「頑張ればご褒美がもらえる」という一見モチベーションを高めるように見える制度が、実は「ご褒美がもらえなかったらどうしよう」という不安や自己否定につながっているかもしれない。

このテーマは、教育現場だけでなく、広く社会にとって重要な問題だと感じている。まず、現代の教育は依然として“評価”に重きを置く傾向があるが、それがすべての子どもにとって良い結果を生むわけではない。報酬制度を用いる際には、子ども一人ひとりの反応や感じ方に目を向ける必要がある。また、子どもの成長において、失敗や不合格を「悪いこと」として捉えさせるのではなく、学びや気づきの機会とするような価値観の転換も必要だ。

さらにこの問題は、子どもに限らず、大人の世界にも通じる部分がある。現代社会では、成果や報酬が強調される一方で、その裏側にあるプレッシャーやストレスに対するケアは十分ではない。働く人々もまた、「評価されなければならない」というプレッシャーの中でモチベーションを保とうとしている。したがって、報酬制度と心理的な影響に関する研究は、教育現場だけでなく、企業や家庭など、あらゆる人間関係に応用できる可能性がある。

この調査を通じて私は、子どもたちが安心して挑戦できるような環境づくりのヒントを見つけたいと考えている。そして、教育や指導に携わる人々が「ただ褒める」「ご褒美を与える」だけでなく、その声かけや関わり方が子どもにどう受け取られているかを見つめ直すきっかけとなれらると思う。

2. 調査概要とリサーチ・クエスチョン

学生の学習意欲に関する意識調査の概要は以下である。調査期間は 2025 年 12 月 4 日～12 月 10 日であり、調査主体は文教大学情報学部における講義「メディア研究法 C（総合演習）」である。調査対象は専門学校、短期大学、大学に通う男女 100 人である。調査方法はインターネットオンライン法による自記式アンケート調査であり、標本抽出方法は調査モニターの専門学校、短期大学、大学に通う男女 100 人を有意抽出した。有効回答数は N=100 である。主な質問項目は小学生～高校生の間の経験、学習意欲、学習姿勢、学習時間等だ。

以上の調査特性にかんがみて、本研究では次のリサーチ・クエスチョン（RQ）を設定した。

- RQ 1：報酬制度は子どものやる気を引き出すのか、プレッシャーを与えるのか
- RQ 2：幼少期に内発的な報酬や支援を多く受けてきた学生は、大学生になった今も内発的動機づけが強く、「自ら学ぶ意欲」も高いのではないか

表1 調査概要

調査期間	2025 年 12 月 4 日～12 月 10 日
調査主体	メディア調査研究法 C
調査対象	専門学校、短期大学、大学に通う男女 100 人
調査方法	インターネットオンライン法による自記式アンケート調査
標本抽出方法	調査モニターの専門学校、短期大学、大学に通う男女 100 人を有意抽出
有効回答数	N=100
主な質問項目	小学生～高校生の間の経験、学習意欲、学習姿勢、学習時間等

3. 調査結果

3.1 小学生～高校生までの間の家庭の経験

調査対象者の小学生から高校生の間の家庭での経験から結果を見ていく。「あなたが小学生～高校生の間に家庭で経験したことをおしえてください。以下の内容についてそれぞれ、「1.はい」か「2.いいえ」のうち、あてはまるものを1つずつ選んでください」という形で尋ねた。

「テストの点数が良いと、ご褒美（お菓子・欲しい物・外食など）をもらっていた」に「はい」と答えた人は38.0%だった。「勉強する時間を家族に決められていた」に「はい」と答えた人は32.0%だった。「宿題や勉強の進み具合を家族に毎回チェックされていた」に「はい」と答えた人は28.0%だった。「家族から『勉強しなさい』とよく言われていた」に「はい」と答えた人は39.0%だった。「成績や点数について家族に叱られることがあった」に「はい」と答えた人は39.0%だった。

「兄弟姉妹や友達と成績を比べられることがあった」に「はい」と答えた人は28.0%だった。「成績や提出物に応じて、おこづかいや外食などの待遇が変わっていた」に「はい」と答えた人は25.0%だった。「成績が悪いと、遊びや自由時間を取り上げられることがあった」に「はい」と答えた人は27.0%だった。「自分から進んで勉強したときに『自分でやろうと思ってえらいね』と褒められていた」に「はい」と答えた人は42.0%だった。「勉強した内容を家族に話すと、興味を持って聞いてくれていた」に「はい」と答えた人は49.0%だった。

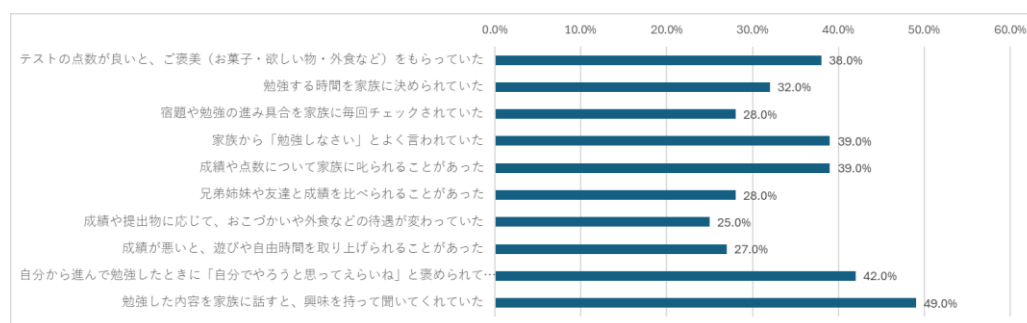


図1 問1の単純集計

3.2 小学生～高校生までの間の学校の経験

調査対象者の小学生から高校生の間の学校での経験から結果を見ていく。「あなたが小学生～高校生の間に学校で経験したことをおしえてください。以下の内容についてそれぞれ、「1.はい」か「2.いいえ」のうち、あてはまるものを1つずつ選んでください。」という形で尋ねた。

「テストの点数が良いと、先生からシールや賞品などのご褒美をもらっていた」に「はい」と答えた人は 39.0%だった。「成績やテスト結果がクラスや廊下に掲示されたり、表彰されていた」に「はい」と答えた人は 36.0%だった。「成績が悪いと、注意や叱責を受けていた」に「はい」と答えた人は 33.0%だった。「宿題ができていないと、居残りや自由時間の制限などの罰があった」に「はい」と答えた人は 31.0%だった。「クラスメイトとテストの点数を比べられる機会が多かった」に「はい」と答えた人は 30.0%だった。

「グループ対抗の競争形式の授業が多かった」に「はい」と答えた人は 22.0%だった。「個人の成績を競い合う授業が多かった」に「はい」と答えた人は 24.0%だった。「先生から、学習内容について個別に丁寧なサポートを受けていた」に「はい」と答えた人は 35.0%だった。「自分の努力や工夫について、先生に『よく頑張ったね』と褒められていた」に「はい」と答えた人は 44.0%だった。「先生から『期待しているよ』と声をかけられていた」に「はい」と答えた人は 42.0%だった。

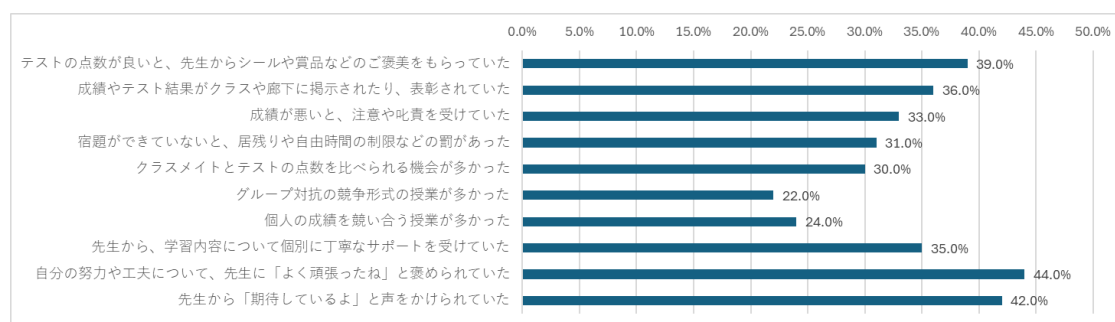


図2 問2の単純集計

3.3 学習に対する基本的意識

調査対象者の学習に対する基本的意識の結果を見ていく。「あなたは、何かを学ぶときにどのようなことを思いますか。以下の項目についてそれぞれ、「1. あてはまる」～「4. あてはまらない」のうち、あなたのお考えにもっともあてはまるものを1つずつ選んでください。」という形で尋ねた。

「興味を持ったことは、とことん調べたり理解したくなる」に「あてはまる」と答えた人は 15.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 49.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 27.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 9.0%だった。「分からないことがあると、納得できるまで調べたくなる」に「あてはまる」と答えた人は 18.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 55.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 21.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 6.0%だった。「新しい知識を得たり、疑問を解決することに楽しさを感じる」に「あてはまる」と答えた人は 20.0%だった。「ややあ

てはまる」と答えた人は48.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は25.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は7.0%だった。

「自分で目標を決め、その達成のために頑張っている」に「あてはまる」と答えた人は15.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は37.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は39.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は9.0%だった。「専門分野の書物や動画、インターネットで調べている」に「あてはまる」と答えた人は15.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は53.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は25.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は7.0%だった。「自分の実力を試せる問題や課題に進んで挑戦している」に「あてはまる」と答えた人は18.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は39.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は33.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は10.0%だった。「学んだことを身の回りの出来事と関連づけて考える」に「あてはまる」と答えた人は9.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は43.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は40.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は8.0%だった。

「学んだことを、日常の中で思い出して考え直すようにしている」に「あてはまる」と答えた人は15.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は51.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は26.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は8.0%だった。「学んだ内容を、実際の生活の中で試してみることがある」に「あてはまる」と答えた人は14.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は54.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は25.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は7.0%だった。「得た知識が正しいかどうか、さまざまな状況に当てはめて確かめている」に「あてはまる」と答えた人は14.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は49.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は30.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は7.0%だった。

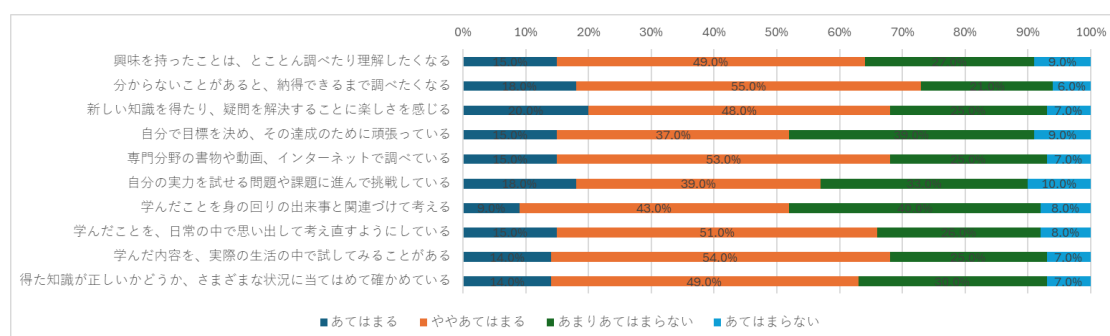


図3 問3の単純集計

3.4 困難課題への取り組み意識

調査対象者の困難課題への取り組み意識の結果を見ていく。「あなたが難問に取り組むときの意識について教えてください。以下の項目についてそれぞれ、「1. あてはまる」～「4. あてはまらない」のうち、あなたのお考えにもっともあてはまるものを1つずつ選んでください。」という形で尋ねた。

「難しい問題でも自分の力で解こうと努力している」に「あてはまる」と答えた人は16.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は49.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は30.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は5.0%だった。「苦勞しても自分の力で課題を成し遂げたい」に「あてはまる」と答えた人は17.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は48.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は30.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は5.0%だった。「一人で解決できそうなことは、できる限り自分ひとりで取り組む」に「あてはまる」と答えた人は26.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は40.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は28.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は6.0%だった。

「講義中にわからないことがあっても、自分でじっくり考えてからでないと質問しない」に「あてはまる」と答えた人は17.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は58.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は20.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は5.0%だった。「誰かに頼る前に、まず自分でできる方法を探すようにしている」に「あてはまる」と答えた人は19.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は48.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は26.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は7.0%だった。「頭を使う難しい課題が好き」に「あてはまる」と答えた人は12.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は48.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は31.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は9.0%だった。

「難しい課題に取り組むのは楽しい」に「あてはまる」と答えた人は11.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は41.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は35.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は13.0%だった。「答えが無い、考えなければならない課題が好き」に「あてはまる」と答えた人は8.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は37.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は43.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は12.0%だった。「課題が難しくなればなるほど積極的になる」に「あてはまる」と答えた人は8.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は43.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は37.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は12.0%だった。「2つの課題のうちどちらかを選ぶのなら、難しい方にする」に「あてはまる」と答えた人は12.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は39.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は36.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は13.0%だった。

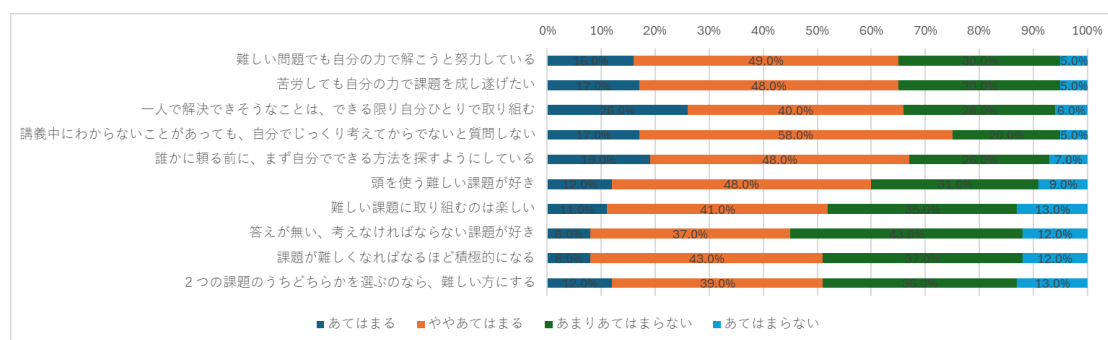


図4 問4の単純集計

3.5 学習に対する態度

調査対象者の学習に対する態度の結果を見ていく。「あなたの勉強に対する姿勢について教えてください。以下の項目についてそれぞれ、「1. あてはまる」～「4. あてはまらない」のうち、あなたのお考えにもっともあてはまるものを1つずつ選んでください。」という形で尋ねた。

「色々な分野を進んで勉強したいと思う」に「あてはまる」と答えた人は17.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は41.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は34.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は8.0%だった。「出された課題だけでなく面白いと思うことは勉強する」に「あてはまる」と答えた人は12.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は53.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は25.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は10.0%だった。「自分がやりたいから勉強する」に「あてはまる」と答えた人は13.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は39.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は37.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は11.0%だった。

「出された課題は誰かに言われなくても進んでやる」に「あてはまる」と答えた人は14.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は36.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は35.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は15.0%だった。「誰かに言われなくても自分から勉強する気になる」に「あてはまる」と答えた人は16.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は40.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は37.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は7.0%だった。「答えが間違っていたとき自分の力で正しい答えを出そうとする」に「あてはまる」と答えた人は13.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は55.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は26.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は6.0%だった。

「問題の解き方は自分で考える」に「あてはまる」と答えた人は16.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は41.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は34.0%だった。

た。「あてはまらない」と答えた人は9.0%だった。「自分が興味を持てる内容だと、勉強する意欲が高まる」に「あてはまる」と答えた人は16.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は49.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は28.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は7.0%だった。

「自分がやりたいと思うから勉強する」に「あてはまる」と答えた人は13.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は43.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は32.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は12.0%だった。「誰かに褒められたいから勉強するのではない」に「あてはまる」と答えた人は16.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は46.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は29.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は9.0%だった。

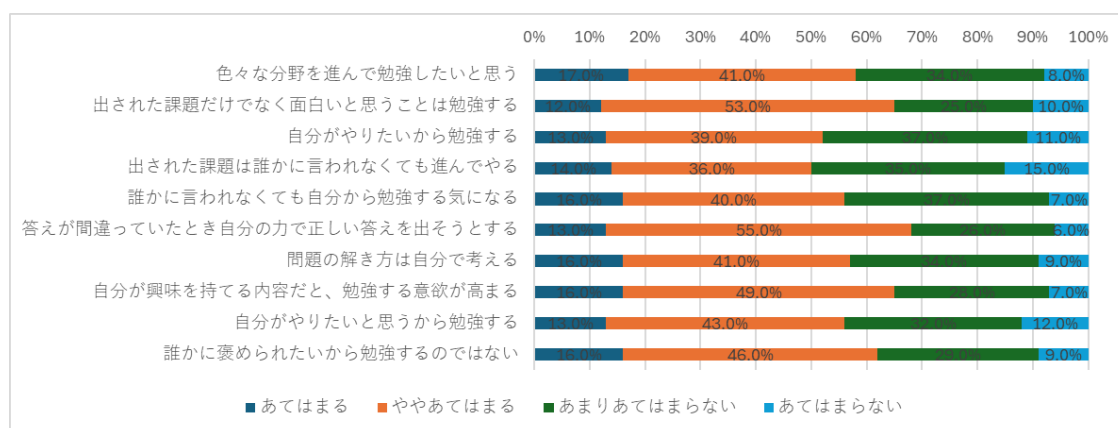


図5 問5の単純集計

3.6 これまでの学習経験・学習方法

調査対象者のこれまでの学習経験・学習方法の結果を見ていく。「あなたはこれまで、どのように勉強に取り組んできましたか。以下の項目についてそれぞれ、「1. あてはまる」～「4. あてはまらない」のうち、あなたのお考えにもっともあてはまるものを1つずつ選んでください。」という形で尋ねた。

「興味を持ったテーマについて、自分から調べたり本を読んだりしたことがある」に「あてはまる」と答えた人は15.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は45.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は35.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は5.0%だった。「学業と直接関係なくても『面白そう』と感じて学ぶことが多い」に「あてはまる」と答えた人は17.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は51.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は26.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は6.0%だった。「新しい知識を得たときに『もっと知りたい』と感ずることがある」に「あてはまる」と答

えた人は 17.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 55.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 21.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 7.0%だった。

「他人から言われなくても自分で何かを調べたり、練習したりすることが多い」に「あてはまる」と答えた人は 14.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 49.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 32.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 5.0%だった。「『これを理解したい』『うまくできるようになりたい』と思って自分で試行錯誤した」に「あてはまる」と答えた人は 14.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 53.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 29.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 4.0%だった。

「知らないことを知るの楽しいと感じる」に「あてはまる」と答えた人は 13.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 48.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 33.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 6.0%だった。「自分の成長を実感すると嬉しい」に「あてはまる」と答えた人は 19.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 42.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 29.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 10.0%だった。「興味のあることは、時間を忘れて取り組むことがある」に「あてはまる」と答えた人は 13.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 59.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 21.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 7.0%だった。

「他人の評価よりも、自分が納得できるかどうかを重視して学んでいる」に「あてはまる」と答えた人は 16.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 54.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 25.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 5.0%だった。

「『なぜそうなるのか』を考えることが好きだ」に「あてはまる」と答えた人は 20.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は 48.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は 27.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は 5.0%だった。

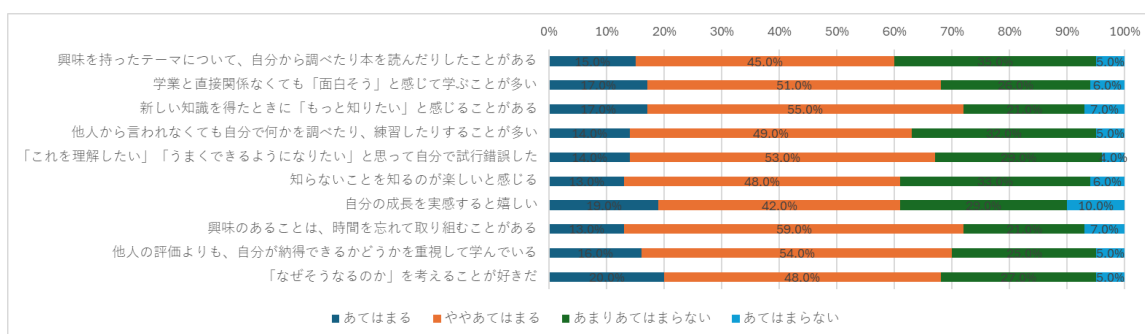


図6 問6の単純集計

3.7 学習における主体性

調査対象者の学習における主体性の結果を見ていく。「あなたの勉強に対する取り組み姿勢について教えてください。以下の項目についてそれぞれ、「1. あてはまる」～「4. あてはまらない」のうち、あなたのお考えにもっともあてはまるものを1つずつ選んでください。」という形で尋ねた。

「勉強は『やらなければならないもの』だと感じる」に「あてはまる」と答えた人は11.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は50.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人29.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は10.0%だった。「成績や単位に関係ないことは、あまり学ぶ気にならない」に「あてはまる」と答えた人は10.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は51.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は34.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は5.0%だった。

「興味があっても、授業で扱わない内容は特に調べない」に「あてはまる」と答えた人は10.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は43.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は38.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は9.0%だった。「他人から言われないと行動に移さないことが多い」に「あてはまる」と答えた人は7.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は46.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は43.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は4.0%だった。

「資格や就職など、目的がないと勉強を続けにくい」に「あてはまる」と答えた人は11.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は49.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は32.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は8.0%だった。「学ぶことは、将来のために仕方なくするものだと思う」に「あてはまる」と答えた人は14.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は36.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は42.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は9.0%だった。「点数や評価がつかないと、やる気が出にくい」に「あてはまる」と答えた人は13.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は36.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は42.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は9.0%だった。

「興味よりも、役に立つかどうかで勉強内容を決めている」に「あてはまる」と答えた人は17.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は36.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は42.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は5.0%だった。「他人から褒められると、やる気が出る」に「あてはまる」と答えた人は14.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は53.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は26.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は7.0%だった。「自分で目標を立てるよりも、与えられた課題をこなすほうが得意だ」に「あてはまる」と答えた人は13.0%だった。「ややあてはまる」と答えた人は57.0%だった。「あまりあてはまらない」と答えた人は23.0%だった。「あてはまらない」と答えた人は7.0%だった。

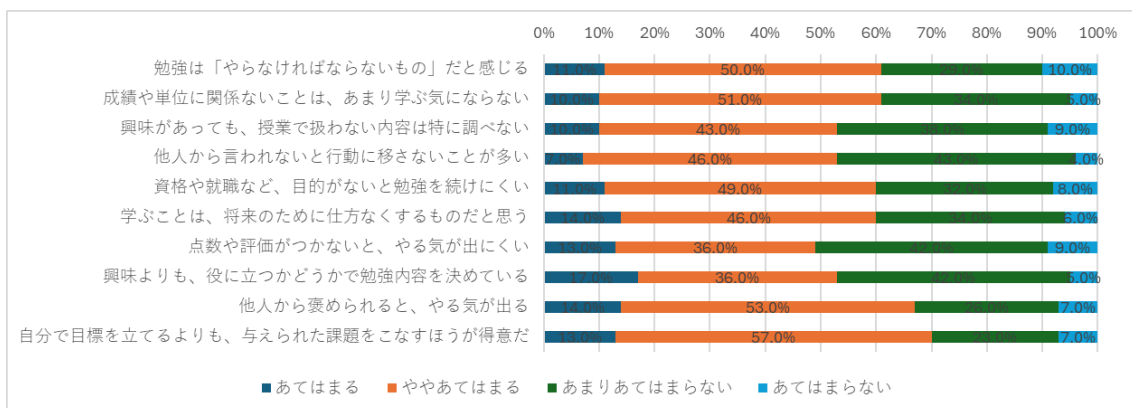


図7 問7の単純集計

3.8 自主学習時間(1日平均)

調査対象者の自主学習時間（1日平均）の結果を見ていく。「あなたの1週間の授業や課題を除いた、1日の平均自主学習時間について教えてください。以下の項目についてそれぞれ、「1. 0時間（ほとんどしていない）」～「5. 3時間以上」のうち、最も当てはまるものを1つ選んで下さい。」という形で尋ねた。

「0時間（ほとんどしていない）」と答えた人は34.0%だった。「1時間未満」と答えた人は24.0%だった。「1時間以上～2時間未満」と答えた人は22.0%だった。「2時間以上～3時間未満」と答えた人は14.0%だった。「3時間以上」と答えた人は6.0%だった。

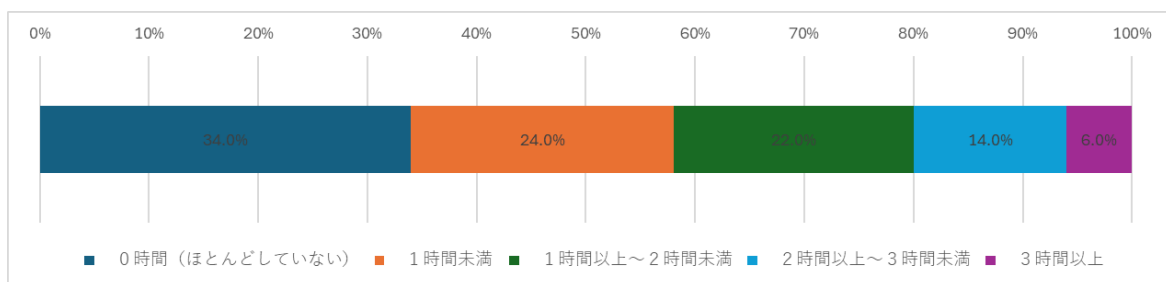


図8 問8の単純集計

4. 因子分析結果

4.1 従属変数

本調査では、問 8 で行なった自主学習時間（1 日平均）の「0 時間（ほとんどしていない）」、「1 時間未満」、「1 時間以上～2 時間未満」、「2 時間以上～3 時間未満」、「3 時間以上」を従属変数とする。

4.2 独立変数

本調査では、問 6 の調査対象者のこれまでの学習経験・学習方法の結果で因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行い 1 つの因子を採用した。その結果を表 2 に示す。以下では、この因子の特徴を述べる。

表 2 問 6 の因子分析結果

	因子 F1
F1 自発的傾向が強い	
興味のあることは、時間を忘れて取り組むことがある	.742
知らないことを知るのが楽しいと感じる	.698
興味を持ったテーマについて、自分から調べたり本を読んだりしたことがある	.672
新しい知識を得たときに「もっと知りたい」と感じることもある	.640
「なぜそうなるのか」を考えることが好きだ	.638
「これを理解したい」「うまくできるようになりたい」と思って自分で試行錯誤した	.623
他人から言われなくても自分で何かを調べたり、練習したりすることが多い	.611
他人の評価よりも、自分が納得できるかどうかを重視して学んでいる	.611
自分の成長を実感すると嬉しい	.603
学業と直接関係なくても「面白そう」と感じて学ぶことが多い	.536
因子抽出法：最尤法、回転法：Kaiser の正規化を伴うプロマックス回転	

4.3 因子(自発的傾向が強い)

この因子は、「興味のあることは、時間を忘れて取り組むことがある」(因子負荷量 .742, 以下のカッコ内数値も同様), 「知らないことを知るのが楽しいと感じる」(.698), 「興味を持ったテーマについて、自分から調べたり本を読んだりしたことがある」(.672), 「新しい知識を得たときに『もっと知りたい』と感じることがある」(.640), 「『なぜそうなるのか』を考えることが好きだ」(.638), 「『これを理解したい』『うまくできるようになりたい』と思って自分で試行錯誤した」(.623), 「他人から言われなくても自分で何かを調べたり、練習したり

することが多い」(.611),「他人の評価よりも、自分が納得できるかどうかを重視して学んでいる」(.611),「自分の成長を実感すると嬉しい」(.603),「学業と直接関係なくても『面白そう』と感じて学ぶことが多い」(.536)の項目の因子負荷量が高かった。これらを学習に対して「自発的傾向が強い」と解釈した。

本研究ではこの因子を独立したものとみなし、この因子得点を独立変数として用いる。

5. 重回帰分析

これまでに述べた独立変数を用いて、学習時間と学習意欲の関係を説明する重回帰分析を行った。学習意欲の変数として、自発性が強いを独立変数、学習時間を従属変数として分析にかけた結果が表3である。

表3 学習時間と学習意欲の関係

分類	標準化係数 β	有意確率 p
自発的傾向が強い	.356	.001
調整済み R^2	.222	
N	100	

自主学習時間を従属変数とした重回帰分析の結果、自発的傾向の強さは自主学習時間に対して統計的に有意な影響を示した ($\beta = .356, p = .001$)。標準化係数の値から、自発的傾向は比較的強い影響力を持つことが確認された。尺度の方向性を踏まえると、自発的に学ぶ傾向が強い学生ほど、自主学習時間が長い傾向にあると解釈できる。

6. 参考文献

- 1) 桜井, 茂男. (1989). 質問紙法による児童の内発的動機づけに及ぼす言語的報酬と物質的報酬の効果の比較. 実験社会心理学研究, 29(2), 153-159.
- 2) 桜井, 茂男. (1989). 小学生における学習動機の測定. 奈良教育大学紀要 (人文・社会科学), 38(1), 207-220.
- 3) 速水, 敏彦. (1995). 外発と内発の間に位置する達成動機づけ. 心理学評論, 38(2), 171-193.
- 4) 木村, 道浩. (2006). 内発的動機づけに及ぼす報酬の効果 (修士論文, 弘前大学大学院).
- 5) 桜井, 茂男. (1997). 自ら学ぶ意欲の心理学—キャリア発達の視点を加えて. 有斐閣.